

デジタルハリウッド大学大学院 2016年度成果発表会 デジコレ7

Digital Hollywood University Graduate School 2016 Results Presentation
"DHGS Collection 7"

大島 志拓 Yukihiko Ohshima

デジタルハリウッド大学 大学院事務局 チーフ

デジタルハリウッド大学大学院では、修士課程在学生の活動成果を広く学外へ発表する機会として「デジコレ」と称したイベントを毎年度開催している。デジコレでは特に在学生自身による活動成果の発表を重視しており、毎回10名前後の学生が各々の修士論文やビジネスプランに関して発表する「修士課題プレゼンテーション」をはじめ、研究実践科目(ラボ)による成果発表やポスターセッション、また有志学生による様々なデモ展示などを実施している。

さらにデジコレでは本学が掲げる「実社会でのビジネスと学術との架橋」を趣旨とするカリキュラム・ポリシーに照らし、広く社会一般の来場者を呼び込むことを目指している。そのため学内外に対する幅広い発信力のあるゲストの招聘を継続的に行っているほか、多様な立場の来場者がイベントに没入するための統合的なクリエイティブワークの実践にも注力している。本稿ではこれらの点に触れながら、デジコレ7の概要を紹介する。

1. 学生自身による成果の発信

2017年2月25日(土)に開催されたデジコレ7では、本学キャンパス内の駿河台ホールをメイン会場として、修了年次の学生10名による「修士課題プレゼンテーション」や、研究実践科目(ラボ)代表学生2名によるプロジェクト活動紹介等が実施された。

特に「修士課題プレゼンテーション」は、「修士課題制作」に取り組む学生の事前のエントリーを経て、さらに、大学院専任教員および事務局職員(スタッフ)で構成する実行委員会が選出した学生が、各4分間のプレゼンテーションを行うデジコレのメインイベントである。特に優秀な学生に対しては、実行委員会の事前審議により決定される「MVP Award」や当日の観客投票による「Good Presentation Award」が授与される。今回のデジコレ7ではMVP Awardとして高丸慶氏による「退院支援ナビ 看取り難民問題解決に向けて 病院と在宅を結ぶネットワーク」が、またGood Presentation Awardには岡崎大祐氏による「SHUTT 採寸コミュニケーション革命」が選出された。

大学院という場は、ともしれば研究室等の狭いコミュニティに籠りがちになってしまうイメージがある。しかし、デジコレでは学校という場に留まらず、広く実社会に対して成果発表を行うことが重要であり、その点に本学らしさの一端がある。

2. ゲストスピーカーの招聘

デジコレでは例年複数のゲストスピーカーを招聘し、10分間程度のスピーチをいただいている。今年度は高野真氏(Forbes JAPAN CEO & 編集長/D4V Founder & CEO)、藤井直敬氏(株式会社ハコスコ代表取締役/理化学研究所脳科学総合研究センター適応

知性研究チームリーダー/医学博士)の2名に加え、本学修了生の平田元吉氏(合資会社モードファクトリードットコム代表 / デジタルコンテンツプランナー)にも登壇いただき、学生の発表に対するコメントやご自身の現在の取り組みについてもお話しいただいた。先進的な手法を取り入れたビジネスに携わるゲストによるスピーチは、学生の発表とは異なるスケール感を持つものであった。それは、学生にとっては実社会での未来像を描くにあたって大きな刺激となるものであり、また様々な背景を持つ一般来場者にとっても、貴重な機会となったであろう。

3. 統合的クリエイティブワークの実践

デジコレでは、例年エンタテインメント性を強く纏ったユーザー体験の具現化を特に意識し、イベント全体のイメージを決定するメインビジュアルの制作にあたって「クリエイティブテーマ」を設定している。今年度は登壇者の中心となる大学院12期生を「Voyagers」(航海者たち)に見立てた。そして、彼らが迎える船出の日=「進水式」をモチーフとして、イベント全体の基軸となるクリエイティブコンセプト、空間を構成するビジュアル、音響や映像といった諸要素を統合し、全体的な観覧体験のデザインに取り組んだ。

グラフィック面ではデザインユニットOshidoriが制作した4種のメインビジュアルを基軸として、広報用ポスターやパンフレットを制作したほか、ビジュアルに含まれる造形要素を登壇者用のバンダナや表彰用パネル、また、ステッカーや会場装飾に展開し、統合された世界観を作り上げた。音響や映像についても、制作プロセスの早い段階で、メインビジュアルと一体となり独自の世界観を形成できるよう、効果音やスライド写真を用意し、入念に制作を進めた。こうした観覧体験のデザインは来場者から非常に高い評価を獲得し、デジコレ7の成功を支える原動力となった。

デジコレ7には大学院在生や修了生の他、入学予定者や一般観覧者など様々な立場の方が来場し、最終的に昨年度実績を大幅に上回る250名の来場者数を記録した。

閉じた学校行事ではなく、広く開かれたイベントとして、本学のスローガンである「Entertainment It's Everything」を体現しながら、今後もさらなる飛躍を目指していきたい。

デジタルハリウッド大学大学院 2016年度成果発表会 デジコレ7

実施概要

日時：2017年2月25日(土) 13:00-16:00
会場：デジタルハリウッド大学院 駿河台キャンパス3階
駿河台ホール
URL：http://gs.dhw.ac.jp/exhibition/2016/

【来場者数内訳】(来場者数：250名)

一般	133名
大学院在学者	42名
大学院入学予定者	21名
大学院修了者	14名
大学院教員	22名
デジタルハリウッドスタッフ (運営担当者を除く)	18名

【プログラム】

1. 開会のご挨拶
2. 修了課題プレゼンテーション (前半)
3. 研究実践科目(ラボ)エキシビション
[コンテンツ情報処理ラボ/ヒットコンテンツラボ]
4. 修了生エキシビション [平田 元吉 氏]
5. 修了課題プレゼンテーション (後半)
6. 観客投票/休憩
7. スペシャルゲスト エキシビション [藤井 直敬 氏] [高野 真 氏]
8. MVPおよびGood Presentation Award表彰
9. 学長総評

終了後、ラボポスターセッション&懇親会を実施。

【登壇者および発表タイトル】

01. Olga：HEATER PARKER! アイロン接着できる電子回路で
変えていく、未来の「衣」
02. 市川賢仁：ワンゴ ドッグフードレシピのシェアから始まる
ドッグフード革命!!
03. 水谷真大：スポ-サポ スポーツで叶えるライフワークバランス
04. 坂井隆志：3DCG/VR等を使用した群集シミュレーション
結果のビジュアライズ
05. 茂出木謙太郎：Dolly360 もうカメラマンは映らない! 遠隔
操作で撮影360°カメラ用ドリー
06. 栗原知也：コインスペース サードプレイス革命! 空きスペース
を10分から収益化
07. 鄭美羅：モバイル・インタラクティブ映画 スマホで楽しむ
ユーザー参加型映画の可能性
08. 関沼佑樹：実現'z Self realizationへの一歩としての写真
サービス
09. 岡崎大祐：SHUTT 採寸コミュニケーション革命
10. 高丸慶：退院支援ナビ 看取り難民問題解決に向けて 病院
と在宅を結ぶネットワーク

【ゲストスピーカー】

高野 真 (Forbes JAPAN CEO & 編集長/D4V Founder & CEO)
藤井 直敬 (株式会社ハコスコ代表取締役/理化学研究所脳科学総合
研究センター適応知性研究チームリーダー/医学博士)
平田 元吉 (合資会社モードファクトリードットコム代表 / デジタル
コンテンツプランナー)

